

参考文献

- 1) FRANÇOISE GERVAIS, ÉTUDE COMPARÉE DES LANGAGES HARMONIQUE DE FAURÉ ET DE DEBUSSY, LA REVUE MUSICALE, 1954.
- 2) FRANÇOISE GERVAIS, Op.cit., EXEMPLES MUSICAUX, 1954.
- 3) Jean-Michel Nectoux, Gabriel Fauré Correspondence, Flammarion, 1980.
- 4) EMILE VUILLERMOZ, GABRIEL FAURÉ, FLAMMARION, 1960.
- 5) VL. JANKÉLÉVITCH, FAURÉ ET L'INEXPRIMABLE, PLON, 1974.
- 6) 斉藤磯雄「フランスの詩と歌」, ダヴィット社, 1955.
- 7) Ch. ケックラン「和声の変遷」清水脩訳, 音楽の友社, 昭和56,
- 8) 鈴木信太郎「フランス詩法」上, 白水社, 1970.
- 9) M. グラモン「フランス詩法概説」杉山正樹訳, 駿河台出版社, 1972.
楽譜は GABRIEL FAURÉ, 20 MÉLODIES II ème recueil, J. HAMELLE と
EDWARD B MARKS MUSIC CORPORATION.

最後の2詩句では、子音の効果をフォーレは実に巧みにリズム化している。すなわち、Et sang-
loter d'extases les jets d'eau は噴水の動きを示す模倣諧調であり、また Les grands jets
d'eau sveltes parmi les marbresは子音〔l〕を節として、歌のリズム、旋律と一致させ、月の
光に恍惚とむせび泣くような噴水と落水とを描写している（譜例25）。

譜例25



Ⅲ お わ り に

歌曲集第2巻の上記Ⅱの作品を調べた結果、第1集から約10年を経て、1878年から1884年の間にフォーレはメロディーの作曲活動に大部分をついやした。彼は「高踏派の優雅で、美しい響きのあることばのくみ合せ、フォルムをもった詩作品は、その中ですべてのことばはいかなる真実の思いをも覆いかくしてはいない…」と1911 2,3「ムジカ」誌で述べている。第2巻の歌曲は伝統的な音楽の土台をもとに、彼の真実の心を詩と溶け合せた軌跡、ノスタルジーをかもし出す象徴主義的独自性にほかならない。

彼のとぎれることのないメロディーの美しさは、くみ立てられた大胆な和声上の創意によって展開される。彼にとってメロディーとは心の原初的な表出であり、靈感を表出する手段であった。彼はなんら外部からの影響もうけずに、純粹に音楽の権威と内的倫理性「音と詩」を一体化し、融合して繊細で緻密な分野としてメロディーを確立したといえよう。

フォーレは第4詩句「風変りな変装」のピアノ右手の音階をfantastique!に用い、次に8分音符に減速し、仮装踊踏会の夜の大気を旋回させる（譜例22）。このフレーズは第3巻の「マンドリン」Op. 58-1第9、10小節を予期させる。

譜例22



さらに第2詩節第1詩句、「短旋法にのせて」でRé \sharp をドリア旋法風に用い、月並な哀調をさけている（譜例23）。

譜例23



第3詩節第1詩句で、16分音符のアルペジオが「穏やか」に奏され、パステル画風の色調が、パレストリーナの対斜-16世紀しばしば用いられたトリトナーを効果的にしている（譜例24）。

譜例24



譜例19

PIANO.

sempre dolce

譜例20

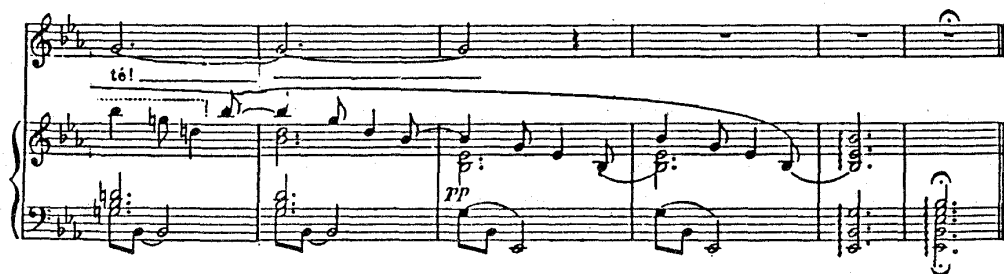
Vo - tre â - me est un pa - y - sa - ge choi - si,

譜例21

Jou - ant du luth et dan - sant, et qua - si

終止は不可能とさえ考えられていた三度上の和音を用い、音に色彩を添える（譜例18）、このⅢ和音を用いることにより、最後の詩句 *mon amour et ta beauté* 「私の愛と君の美しさ」がまさしく星空の静寂の中に溶け込むような神秘さを直感させる。

譜例18



Clair de Lune 「月の光」 Op.46-2

詩6

P.ヴェルレーヌ詩

Votre âme est un paysage choisi,	あなたの魂は1つの選ばれた影色,
Que vont charmants masques et bergamasques	行きかう魅力的仮面とベルガモ踊り,
Jouant du luth et dansant, et quasi	リュートを弾き踊りながら,あたかも
Tristes sous leurs déguisements fantasques!	悲しそう彼らの風変りな仮装に!
Tout en chantant, sur le mode mineur,	みなうたいながら,短旋法に,
L'amour vainqueur et la vie opportune,	勝ほこった恋としあわせな時,
Ils n'ont pas l'air de croire à leur bonheur,	彼らは自分たちのしあわせを信じていないかの
Et leur chanson se mele au clair de lune!	よう,そして彼らのうたは穏やかな月の光にとける!
Au calme clair de lune, triste et beau,	穏やかな月の光に,悲しく美しく,
Qui fait rêver les oiseaux dans les arbres,	夢みさせる小鳥たちの木々の枝,
Et sangloter d'extases les jets d'eau,	そして噴水は恍惚にすすり泣く,
Les grands jets d'eau sveltes parmi les marbres!	すらりとした大噴水は大理石のあいだに!

詩は4詩句を1詩節とする3つからなる。詩句は10音節からなり、脚韻はababの交互韻である。

第一詩節	{	choisi	<i>m</i>	<i>a</i>	{	mineur	<i>m</i>	<i>c</i>
		bergamasques	<i>f</i>	<i>b</i>		opportune	<i>f</i>	<i>d</i>
		quasi	<i>m</i>	<i>a</i>		bonheur	<i>m</i>	<i>c</i>
		fantastiques	<i>f</i>	<i>b</i>		lune	<i>f</i>	<i>d</i>

以下省略

第1詩節第3詩句はこの詩句におさまり切れず、第4詩句へ続いている。それは音響的にも、内容的にも妖術的なノスタルジーの効果を発揮させる。すなわち律動強調音の配置によって仮面仮装の人々の踊りの足踏みを、また同時に半階音(an enのくり返し)や脚韻(特にasquesのくり返し)のそれらが舞踊者によってくり返される同じ身振りと動作、踊りの旋回を連想させ彷彿とさせる。

詩は4詩句を1詩節とする3つからなる。詩句は7音節 (heptasyllabe) からなり、脚韻はababの交互韻である。

第一詩節 { mystère *f* *a*
bleus *m* *b*
terre *f* *a*
cieux *m* *b*

第二詩節 { dormantes *f*
momants *m*
charmantes *f*
charmants *m*

以下省略

曲はAAB 47小節からなる。ピアノの部分左手はこもりうたのようにつねに♪♪のリズムで刻まれ、Bの途中からを除いてほとんど主音mibに落着く（譜例16）。歌の部分はヒポドリア風に下降し、声域はsibからutのほとんど男声中音域でうたわれる。この詩に似つかわしく静かな安らぎをあたえる

譜例16

Andante. *dolce*

CHANT. La nuit, sur le grand mys - tè - re, entr' -

PIANO. *p*

フォーレは数多くの作品に対位法を実に巧みに用いている。この曲においても必要最少限に、Aの第3詩句と第4詩句との接続句に対位的に、ソプラノ声部を内声的にまねさせている。第4詩句「多くの星々を（夜）空に」、第2詩節第4詩句「数々の美しい星々によって」、さらに第3詩節第4詩句「そして君の美しさ」にそれぞれロクリア旋法風が用いられて、また変音を巧みに用いて流れ星の光が消滅するかのように優しくイメージ化される（譜例17）。

譜例17

sempre dolce

ter - re, Que d'é - toi - les dans l'en -

sempre dolce *tranquillamente*

譜例14



終結局、ピアノの部分は Sous dominante による変格終止を用い（譜例15）、レイラへの限り
ない幕情を表わしている。

譜例15



Nocturne「夜想曲」Op.43-2

V.ド・リルーアダム詩

詩 5

La nuit, sur le grand mystère,
Entr'ouvre ses écrins bleus:
Autant de fleurs sur la terre,
Que d'étoiles dans les cieux!

夜は、大いなる神秘に、
なかばひらく青い宝石箱、
地上の花々、
空の星々!

On voit ses ombres dormantes,
S'éclairer à tous moments,
Autant par les fleurs charmantes,
Que par les astres charmants.

まどろむ影が、
明るくなるときは、
美しい花々、
美しい星々。

Moi, ma nuit au sombre voile.
N'a, pour charme et pour clarté,
Qu'une fleur et qu'une étoile;
Mon amour et ta beauté!

私には、夜は暗きとばり。
魅惑と明るさに、
一輪の花と一つの星、
私の愛と君の美しさ!

第3詩句はRéが半音上の音階を用いて、新鮮で独特なニュアンスを添える（譜例11）。

譜例11

ger, Ont un par-fum moins frais, ont u-ne o-deur moins

cresc. poco a poco

第4詩句 Ô blanch Leïlah ! はアポジアチュールを用いることによって、洒落たレイラを空想させる（譜例12）。

譜例12

Ô blan - che Le - i - lah! que ton souf - fle lé - ger.

mf

Aの終りからBのはじめ、第3詩節第1 2詩句では長短両調を安易に用いず、ロクリア旋法を（譜例13）、さらに第4詩句ではヒポドリア旋法を用いている（譜例14）。それは常套的な長短調では、高踏派のことばのもつ生き生きとした色彩を十分に音化しえなかったからであろう。

譜例13

bord d'un nid de mous - - - se O Le - i - lah! de -

p

p sempre

Ô Leilah! depuis que de leur vol léger
Tous les baisers ont fui de ta lèvre si douce,
Il n'est plus de parfum dans le pâle oranger,
Ni de céleste arôme aux roses dans leur mousse.

おゝ レイラ! かるやかな飛翔に
すべての口づけはやさしい君の唇からに
げて
もはや香りのない青白いオレンジ,
神々しい匂いもなく苔の台のばら,

Oh! que ton jeune amour, ce papillon léger,
Revienne vers mon coeur aile prompte et douce,
Et qu'il parfume encor la fleur de l'oranger,
Les roses d'Ispahan dans leur gaine de mousse.

おゝ なんと君の若き愛は、軽やかな蝶、
もどれ私の心にやさしく迅速な翅で
さあもう一度かおらせてオレンジの花を、
イスパハンのばらは苔むす飾り台に、

詩は4詩句を1詩節とする4つからなる。詩句は12詩節からなり、脚韻はababの交互韻である。韻 mousse, oranger, douce, léger は4詩節とも交代にくり返されている。しかしそれらは決して単調になるよりもむしろ、詩句や詩節を豊かにし、ニュアンスをあたえている。それらはペルシャ(現イラン)の古都イスパハンの恋人、レイラに対する忘れがたき慕情として綿々と詠われている。すなわち最後の詩句が最初の詩句に戻ってくることで。

第一詩節	mousse	f	a	第二詩節	léger	m
	l'oranger	m	b		douce	f
	douce	f	a		l'oranger	m
	léger	m	b		mousse	f

以下省略

フォーレは詩人が描いたオリエントのエキゾティズムの官能を、むしろ最もパリの的な音で薫らせた。

曲はAABA部からなる。前奏および間奏句ともに旋律は内声に潜り、優雅で官能的なエキゾティズムを表わす(譜例10)。

譜例10

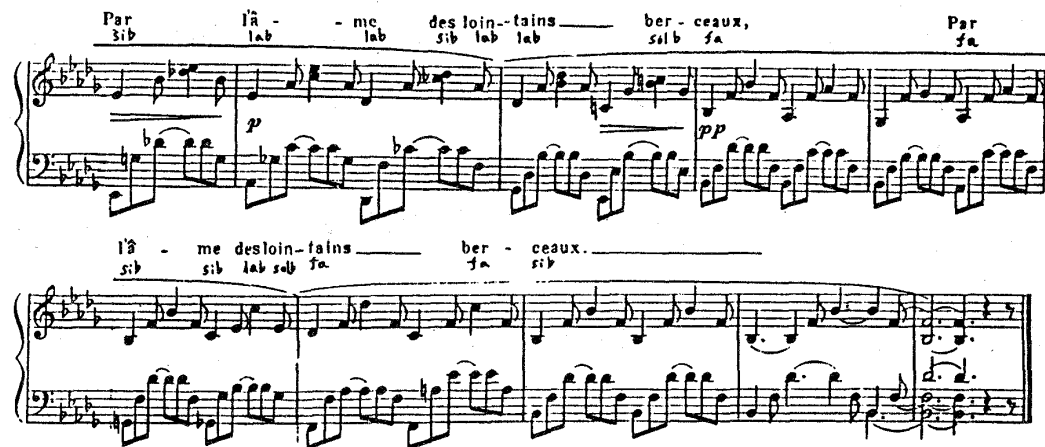


譜例 8



フォーレの音は細やかな叙情性に豊み、効果的にノスタルジーを、独特なリリズムを醸しだしている。うわべの叫び声をさけ、知性ある感動を的確につたえる。第3詩節第4詩句「はるか遠いゆりかごのうたの魂に」はくり返されるが、そのことによってむしろ一層余韻を残すことに成功している（譜例9）。

譜例 9



Les Roses d'Ispahan 「イスパハンのばら」 Op.39-4

詩 4

L. ド・リール詩

Les roses d'Ispahan dans leur gaine de mousse,	イスパハンのばらは苔むす飾り台に，
Les jasmins de Mossoul, les fleurs de l'oranger,	モスールのジャスミン，オレンジの花
Ont un parfum moins frais, ont une odeur moins douce,	鮮やかにはかおらず，やさしく香らず
Ô blanche Léilah! que ton souffle léger.	おゝ 色白きレイラ！ なんと君の軽やかな吐息

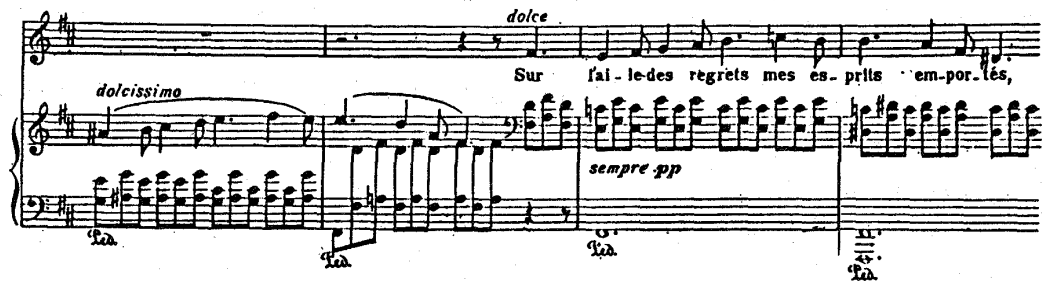
Ta lèvre est de corail, et ton rire léger,	君の唇はさんご色， ほほ笑みは軽やかに，
Sonne mieux que l'eau vive, et d'une voix plus douce,	清流より響き，声はさらにやさしく，
Mieux que le vent joyeux qui berce l'oranger,	オレンジの木々を揺する心ちよげな風より
Mieux que l'osieaux qui chante au bord d'un nid de mousse.	小鳥がうたう苔むす巣よりも

譜例 4



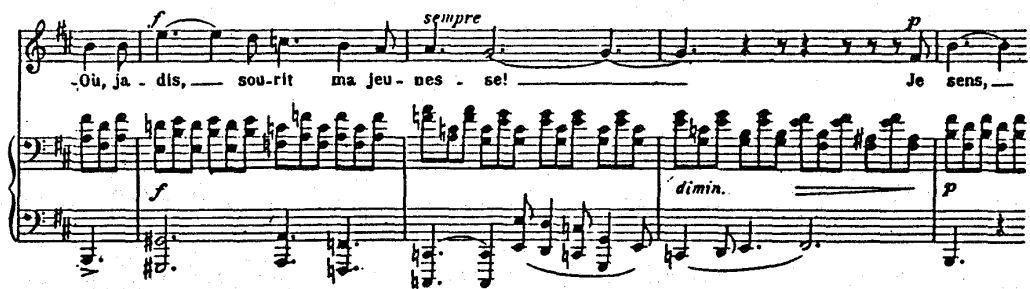
Bを導びくピアノの部分、右手が第2詩節第1詩句「悔恨の翼に乗って」以下「魅せる丘に夢みながら…、かつて私の若さがほほ笑んだ」を暗示させるメロディーを飛翔させる（譜例5）。

譜例 5



A再現部へは、前奏句と同じ和声を用いず、機能をかえて、予想外に最後の詩節「私は感ずる明るい太陽に勝ちほった思い出」へすばやくたち戻る（譜例6）。

譜例 6



ちなみにフォーレはA.シルヴェストルの詩に12遍作曲している、この数はP.ヴェルレーヌの17遍に次ぐ。シルヴェストルは高等理工科学学校を卒業し、大蔵省長官代理などの経歴をもち、その上にパルナシャンとして、美術批評家、劇作家としても著名人である。さらにラブレー張りのコント作家で、その方面にも名を残したが、造形的美を愛好した可塑的詩人のひとりでもある。

フォーレは詩句をくり返すとき、たとえば最後の詩句「(私の心には) 君の姿しかもはや花咲かない」を、詩句のイメージをそこなうことなく、音を十分に準備して単調にならないように用いる。

Automne「秋」Op.18-3

A. シルヴェストル詩

詩2

Automne au ciel brumeux, aux horizons navrants,	秋は霧深い空に、悲痛な水平線に、
Aux rapides couchants, aux aurores pâlies,	速い落日に、蒼白き暁に、
Je regarde couler, comme l'eau du torrent,	私は流れを見つめる、急流のような、
Tes jours faits de mélancolie,	君の日々はもの憂くさせる。
Sur l'aile des regrets mes esprits, emportés,	悔恨の翼に私の心は運ばれ、
Comme s'il se pouvait que notre âge renaisse!	私たちの歳月が生まれかわるごとく!
Parcourent en rêvant les coteaux enchantés,	夢みごちにたどり着く魅了した丘、
Où, jadis, sourit ma jeunesse!	そこに、かつて私の青春はほほ笑んだ!
Je sens, au clair soleil du souvenir vainqueur,	私は感じる、明るい太陽に勝ちほこった
Refleurir en bouquet les roses déliées,	思い出 花咲く繊細なばらに、
Et monter à mes yeux, des larmes, qu'en mon cœur,	そして私の瞳にあふれる、涙、心には
Mes vingt ans avaient oubliées!	20年の歳月が忘れられて!

詩は4詩句を1詩節とする3つからなる。詩句は12音節3詩句と8音節1詩句からなり、脚韻はababからなる交韻である。

この詩は諸調の美しさをもち、それは第1詩節の昌頭語Automneに含まれる2つの〔o〕〔ɔ〕が3詩句に配置され、この詩全体に効果的な陰うつさ、重苦しさを漂わせている。すなわち第1詩句に6つ、第2に4つ、第3に3つの合計13〔o〕〔ɔ〕〔ɔ〕が子音とくみ合され「秋」の旋律にメランコリーを注ぐ。

第一詩節	{	navrants	<i>m</i>	}	<i>a</i>	
		pâlies	<i>f</i>		<i>b</i>	
		torrent	<i>m</i>		<i>a</i>	
		mélancolie	<i>f</i>		<i>b</i>	
第二詩節	{	emportés	<i>m</i>	}		
		renaisse	<i>f</i>			
		enchantés	<i>m</i>			
		jeunesse	<i>f</i>			

フォーレはこの曲を作曲するにあたり、曲集第1巻第9曲「秋のうた」ch.ボードレール詩、を思い出し対比させたであろう。それは Bientôt nos plongerons dans les froides ténèbres; Adieu, vive clarté de nos étés trop courts! (やがて、冷たい闇の中に私たちは沈む! さらば、短かかった夏の活気ある明るさよ!) と「私の心に、忘れていた20年の歳月」。

曲はABÁからなる、冒頭のピアノ部分右手重音はモノトーンなリズムと和音を奏し、アンニュイを漂わせ、左手1オクターブの切分音に男性的な絶望感と哀惜の情を表わす(譜例4)。

譜例 1

Andante, quasi Allegretto. $\text{♩} = 66$.

Ta ro - se de pourpre à ton clair so - leil, 8 Juin,

pp sempre *e* *sempre legato*

フォーレはこの曲中においても、しばしば音階上の第4音を半音上げて、リディア旋法風に用いることによって、詩人の空想するギリシャ時代の理想の女性像リディア（第1巻第8曲）を発展させる。

Aの終りで一時属調変ニ長に転調したのち Bの部分のはじめで、詩句「君の真珠は燃空になんと優しく」のメロディー部を更に ♩ 変イ長で歌わせ、1小節遅らせてピアノ右手にその旋律を巧妙になんなく変ト長で真似させる、すなわち属調の属調変イ長に転ずるかのように属七の和音を鳴らして見せながら、すばやく原調変ト長の属七のそれに戻ってみせる（譜例2）。

譜例 2

dolce

Que ta per-le est dou - ce au ciel en - flammé, E -

B部終りでは、原調にはほど遠いヘ長の一時的転調と、バスの半音を含む下降進行を巧みに用いて、翼を再びもとにたたみながら地上に舞い降るかのように、原調に戻って見せる。再現部A'はピアノ部分を *dolcissimo* で奏しながら、第4詩節第1詩句「うたう海は、岸に沿い」、同第2詩句「永遠のささやきをやめるだろう」とうたわせる（譜例3）。

譜例 3

dolce

char - mé! La chan-tan - te

ppp *dolciss.*

Nell「ネル」Op.18-1

L.ド・リール詩

詩1

Ta rose de pourpre à ton clair soleil,
O juin, étincelle, enivrée,
Penche aussi vers moi ta coupe dorée;
Mon cœur à ta rose est Pareil.

真紅のばらは君の明るい太陽,
おゝ6月, 輝き, 酔いしれる,
かたむけよ君の黄金の杯,
私の心は君のばらに.

Sous le mol abri de la feuille ombreuse,
Monte un soupir de volupté;
Plus d'un ramier chante au bois écarté,
O mon cœur, sa plainte amoureuse.

やさしい隠れ家の葉かげに,
快樂の吐息は昇る,
もはや山鳩は裏の森でうたわず,
私の心にも, 愛を嘆かず.

Que ta perle est douce au ciel enflamme,
Etoile de la nuit pensive!
Mais combien plus douce est la clarté vive.
Qui rayonne en mon cœur charmé!

なんと君の真珠は燃空にやさしく,
思い深げな夜の星!
なんとやさしく快活な明るさ,
私の心を魅了して輝やく!

La chantante mer, le long du rivage,
Taira son murmure éternel,
Avant qu'en mon cœur, chère amour. ô Nell,
Ne fleurisse plus ton image!

うたう海は, 岸に沿い,
永遠のささやきをやめるだろう,
私の心に, いとしい人, おゝネル,
もはや君の姿しか花咲かない!

詩は4詩句を1詩節とする4つからなる。詩句は10音節が交互し、脚韻はabbaからなる抱擁韻である。

第一詩節 $\left\{ \begin{array}{ll} \text{soleil} & m \\ \text{enivrée} & f \\ \text{dorée} & f \\ \text{pareil} & m \end{array} \right\} \begin{array}{l} a \\ b \\ b \\ a \end{array}$

第二詩節 $\left\{ \begin{array}{ll} \text{ombreuse} & f \\ \text{volupté} & m \\ \text{écarté} & m \\ \text{amoureuse} & f \end{array} \right\}$

以下省略

フォーレは「ネル」について、「6月、その開花期と日光の楽しさ、ネルが詩人の心に靈感をあたえた情熱の愛に類似するため純粋に喚起される」とJ アメル宛の手紙1880.6.24で述べている。

曲はAABĀの部分からなる。ピアノの伴奏部はつねにとだえることなく、きわめて独創的な16分音符のアルペジオではつらつと奏される。第1詩句「明るい太陽に君の真紅のばらは」から、第2詩句「おゝ、6月よ…」へと、mibから1オクターブ上へ昇ると同時にピアノ左手のバスの滑らかな順次下降進行が、ちょうど6月の大気を思わせる(譜例1)。

フォーレの歌曲

歌曲集第2巻について

下山 進

Les Mélodies de GABRIEL FAURÉ
sur les Méldies du deuxième recueil

By Susumu SHIMOYAMA

De la musique avant toute chose,
Et pour cela préfère l'Impair...

Art Poétique, P. VERLAINE

なによりもまず音楽を、
そのために奇数脚を選べ...

詩法 ポ・ヴェルレーヌ

I はじめに

フォーレは歌曲集第1巻で、当時のロマンス様式をじょじょにメロディー様式へと発展させ、彼独自の「音と詩」を融合確立した。その独自さは、彼が音楽を学んだニーデルメイエール宗教音楽学校、および彼の師ニーデルメイエールに、他方にV・ユゴーを代表とするロマン派と、L・ド・リールを代表とする高踏派の詩作品に融発影響された。すなわち前者からの教会旋法、シラビック様式 これらとメロディーにつけられるように考えだされた和声法—経過的転調、七の和音連結、機能のぼかし、アルペジオ、和声的旋律Mélodie harmoniqueなどと、後者からの感情吐露を抑えた彫刻的な美しさとを節度ある感性で融合させた。

今回は上記のこれらの事柄、フォーレ歌曲作品における独自性、すなわち「音と詩」の融合がどのように第2巻で展開され発展されていくかを述べる。

II 第2巻の歌曲について

この曲集は第1巻どうよう20曲からなる。それらは、Op.18-1「ネル」L・ド・リール詩、Op.18-2「旅人」、Op.18-3「秋」A.シルヴェストル、Op.21「ある日の詩」ch.グ・ムーザン、-1「めぐりあい」、-2「いつも」、-3「別れ」1880年、Op.23-1「ゆりかご」S.プリュドム、Op.23-2「ふたりの愛」、Op.23-3「秘密」1882年、Op.27-1「愛の歌」、Op.27-2「歌の精」1883年、Op.39-1「あけぼの」、Op.39-2「捨てられた花」、Op.39-3「夢の国」A.シルヴェストル、Op.39-4「イスパハンのぼら」L・ド・リール1884年、「祈り」S.ボルデーズ1890年、Op.43-2「夜想曲」1886年、Op.46-1「贈物」V.ド・リラダン、Op.46-2「月の光」P.ヴェルレーヌ1887年、Op.7-3「舟唄」M.モニエ1865年である。これら20曲いずれも「音と詩」のメランジェを美しく確立しているが、これらの中より下記6曲を選び述べる。